

◆教育委員会

現行制度で十分できる



行政のプロではないが、あ
る分野の識見を有する委員
が、総合的に基本方針を決
定する仕組みである。

教育委員は委員会内部に
ありながら、一方では非常
勤であり外部に属するもの
でもある。だからこそ、任
命者である首長からも、そ
れを承認する議会からも、
さらには、文科省からも相
対的に独立した機関として
存在し、一種のチェック機
能も付加されるのだ。

私は6年前から大阪府吹
田市の教育委員を務めてお
り、多くの教え子が教師に
なっていることから、学校
を訪れたり、先生たちと話
したりする機会が多い。

学力低下を理由に、文科
省自らが推進してきたゆと
り教育を見直す動きに対し
ても、きちんとした総括な
しに方針をころころ変えら
れては困るといふ先生の声
をよく聞く。文科省が原理
原則抜きに「あれがだめな
らこれ」というのでは現場
は混乱するばかりである。

いずれにしても問題なの
は、教育委員会が本来の機
能を果たしていないことで
ある。多くの委員会は文科
省の意思伝達機関として施
策を学校に伝え管理するだ
けの機関になっており、教
育委員はもの言わぬ名譽職
として事務局の追認機関に
なってしまうのではないか。

加えて事なかれ主義や
「くさいものに蓋」の体質
もみられる。これらが様々
な問題に教育現場が対処で
きず、教育委員会の形骸化
と批判される原因の一つだ
と思う。

実は現行の教育委員会制
度のなかで教育委員会が主
体的に取り組める課題はた
くさんある。

らうことも考えられる。

いずれも教育委員会が地
方分権の精神を生かしなが
ら、地域社会や学校と一体
となって取り組むべき課題
である。施策実現のため
に、委員会の発足時にはあ
ったが今はない予算案、条
例案の送付権や教育委員の
公選制の復活をはかる議論
も必要である。

教育が今日の状況に陥っ
た根本原因を問いただすこ
となく、いじめた子の出席
停止や体罰範囲の見直しと
いった対症療法で乗り切る
うとするのは大人の責任放
棄であり、それを貫くのは
「強者の論理」に他ならな
いと私は思っている。

投稿は、〒530・82
11朝日新聞社「私の視
点」係かdai-siten@asahi
.comへ。電子メディアに
も収録します。

教育の安定性と中立性の
確保、地方の独自性を保つ
べく生まれた教育委員会の
根本は、教育委員による
「レイマン(一般人)コン
トロール」にある。教育や

学力低下を理由に、文科
省自らが推進してきたゆと
り教育を見直す動きに対し
ても、きちんとした総括な
しに方針をころころ変えら
れては困るといふ先生の声
をよく聞く。文科省が原理
原則抜きに「あれがだめな
らこれ」というのでは現場
は混乱するばかりである。

いずれにしても問題なの
は、教育委員会が本来の機
能を果たしていないことで
ある。多くの委員会は文科
省の意思伝達機関として施
策を学校に伝え管理するだ
けの機関になっており、教
育委員はもの言わぬ名譽職
として事務局の追認機関に
なってしまうのではないか。

加えて事なかれ主義や
「くさいものに蓋」の体質
もみられる。これらが様々
な問題に教育現場が対処で
きず、教育委員会の形骸化
と批判される原因の一つだ
と思う。

投稿は、〒530・82
11朝日新聞社「私の視
点」係かdai-siten@asahi
.comへ。電子メディアに
も収録します。